

## 私の昭和三十年代から四十年代の記憶から

祖父母や両親、弟の六人家族での生活は、貧しいながらも楽しい我が家でした。



私は昭和二十七年に誕生しました。終戦から七年後のことでした。記憶に残る小学生時代の昭和三十五年前後のことを思い出しながらまとめました。

父は、国鉄職員で昼夜問わず働く働き者でした。母は、父を支え兼業農家の野良仕事や家事に追われて昼夜問わず働く働き者でした。祖父は、漁師。祖母は、畑の作物をリヤカーにのせ八幡様での朝市で売っていました。たいしたお金にはならなかったのですが、にぎやかに集うお店は、自分の自慢の品物をそろえて売っていました。祖母は、笑顔で売っていた記憶があります。外房の漁港の町（昭和二十九年沖合漁業の基地として港が整備された。大原漁港）でしたから新鮮な魚はもろんのこと、野菜もたくさん売っていました。

昭和三十四年は、皇太子と正田美智子結婚した年。昭和三十五年は、安保反対の国民運動が激化。カラーテレビが本放送を開始。抱っこちゃん人形が流行。橋幸夫の潮来笠の歌が大ヒットの時代。そして、プロレスラーの力道山やミツワ石鯨提供TBS名犬ラッシーのテレビ放映があった時代でした。

そんな時代の片隅に家族六人。私は、地域の道普請やお祭りの行事や子ども会や婦人会の組織された大人の元気で協力的で活気に満ちた中での生活を肌で感じていました。

食べ物、農作物や魚中心でした。魚は、港に船が入ると汽笛の音が鳴り響いてきて、非番の父は、バケツを大きな自転車の荷台に載せて港まで急ぎ、船からこぼれた鰯をたくさん持ち帰ってきたものでした。めざしにしたり、つみれにしたり、ままかりの酢の物にしたり、薩摩揚げにしたりしてごちそうにありつけたものでした。（ちなみに、父の大きな自転車は、子どもの私は、三角乗りで苦心しながら乗っていた記憶があります。倒したら持ち上げられないほどの大きさだった陽に感じていました。）

### 港鳴り大漁節のおこぼれの鰯を差す手は歓喜に満ちて

また、磯もありテングサを夏には皆で取りに行き庭いっぱい干したものでした。

それから作ってくれる寒天寄せやところてんは、おいしかったことを思い出します。庭に干すてんぐさの山赤茶色手間暇かけてトコロテンとなる

土間では、農作物の収穫物を干したりしていました。田んぼでは、米作りをしていました。私も田畑の作業の手伝いになり出されました。麦踏みもしました。特に田んぼは、近所の皆さんと互いに協力し合ったりして田植えをしていました。

一役の田植えの後のごほうびに特大のとうふ汁わんの中  
青々と苗床育ちほっとして束ねる早さ我の三倍で

庭一面むしる敷きつめもみほしてひっくり返す収穫の顔

台所は、土間で竈が2つ付いた新品になった時は嬉しかったものです。良く火の番をしていてけむりが目に入り涙を流していた私は、煙の出方が改善されたことは助かりました。台所の隣の暗い部屋は、山でとった燃し木になる枝や松の葉などをに入れておく場所でした。暗くてなんだか怖かったことを思い出します。台所は、おいしいものをたくさん作ってくれた懐かしい思い出の場所です。

母の巻く太巻き寿司は秋祭り

特大のぼたもちおはぎ楕円形砂糖大量母の味付け

節分に釜に鍋かけ大豆入り無病息災唱えつつ食べ

また、伯母さんの子どもたちが千葉市内では食べ物が入りにくかったので、夏になるとやってきて食いつなぎにと一緒に暮らしたとのことでした。とでした。おやつは、庭にもキュウリやトマトを栽培していたのでそれをもぎ取って塩をつけて食べたり、パン屋の親戚の方から戴いたパンに耳を砂糖水をつけて食べたりしました。



父は、国鉄職員だったので、静岡にみかんの買い出しや青森にリンゴの買い出しに行っては果物をたくさんたべることができました。木箱いっぱいリンゴを背負ってダッコちゃん人形も買ってきてくれたことが嬉しかったし、あの黒い人形は忘れることができません。(昭和三十六年ダッコちゃん人形百八十円、また、ラーメン三十円、コロツケ十五円の時代) 西瓜やメロンやイチゴは畑で作っていたので食べ放題でした。イチゴは、時にはマヨネーズをかけておかずにもなりました。意外とおいしかった味を思い出します。

父の手にお土産うれしダッコちゃん

いちご摘み赤を選んで夕ご飯にぎわう会話ウクウキシヤキシヤキ

畑中に大玉ゴロリ甘味分けいつもの感じでポンと音だし

鶏小屋があり、鶏の卵が甘くておいしかったことを思い出します。鶏にやるえさ

やはり、私の仕事だったのか、草を細かく刻み、脱穀後の雑米を混ぜたり、あさりの貝殻を細かくしたりしたものを混ぜたりして餌として与えていました。子どもの私には大変だったことを思い出しました。近所の親戚では山羊を飼っていて山羊の乳をもらいに行ったりしました。

#### こけっこの卵新鮮せいじ色たらふく食べよとてつことりて

子ども会の行事では、必ずカレーライスを食べることができました。それ目当てに皆勤賞だったのではないかと思います。小麦粉でとろみを付けたカレー粉の薄味のカレーライスは美味しかったです。又、子ども会の行事で耕耘機の後ろの荷台に乗って子ども会のみんなと磯遊びに出かけました。歩いた方が早く到着する早さも不思議と楽しいものでした。子ども会役員の大人の皆さんの笑顔や雰囲気が良かったことを思い出します。何やっても楽しい時代許された時代だったのでしょいか。

#### 夏休み海水浴を楽しみに梅干しおにぎり母の味つけ

#### 夏休み大潮待つて磯遊び蟹蝸ウニを焼いて食べたり

遊びは、近所の子どもたちと朝から晩まで良く遊んでいました。石蹴りや大将中将などの鬼ごっこやかくれんぼ、お温泉とりゲーム、陣取りなどでした。

テレビが村に一台の頃でもありました。近所の家に放映時間になると見せてもらいに出かけていく時のウキウキは、ワ！ワ！ワがワがミツツ！ミツワミツワと歌いながらミツワ石鹸の提供の名犬ラッシーを見に行ったのでした。まもなくして我が家にもテレビがやってきました。東芝のテレビでした。ぴかぴかでした。大きかった。テレビだけが鎮座した感がありました。なぜテレビが我が家に来たのかと言えば祖父が、病気だったからでした。父が病床の祖父に見せてやりたいと買ったとのことでした。なぜか家族でプロレスラー力道山の応援を拳を振り上げて応援していた姿は懐かしい思い出です。まもなくして祖父は、他界しました(昭和三十六年、私は九歳でした)。そのころは土葬でした。子どもながらに亡くなるという言葉の意味が何となく、ずしんと感じました。

村の、町の片隅に白い服を着た片足の、片手の傷痕軍人さんがいて、その前を通る度になぜか怖いなあと感じていたことを思い出します。(戦後十年くらいは街角に傷痕軍人と称して白衣姿で戦闘帽をかぶって、通行人になにかの金をお金をせびっていたとのこと) また、昭和天皇の写真や天照皇大神(伊勢神宮の正式名称)の掛け軸がありました。なぜかなあと不思議に思っていました(質問はその当時しませんでした)。

また、千葉に行くときは蒸気機関車に乗車して行きました。父が大網保線区に勤務していたのです。当時は、大網(昭和四十七年まで)からスイッチバックをしました。そのため停車時間が多少あったので、父がカップ入りのアイスクリームを車窓に届けてくれました。あのアイスクリームの味は忘れられません。

#### 停車中待つ楽しみは父からの車窓に届くアイスクリーム

母は、夜なべしてミシンや編み機で私のひだスカートやセーターを編んで着せてくれました。何かと手作りであったと思います。また、どてらや布団も自宅で両親が綿を入れる作業を協力して完成させていたことを思い出しました。

#### 大好きな白いセーター模様入り裾に編み込む幾何学模様